

令和6年度学島小学校評価アンケート【児童】分析

84人中 83人回答 回答率 98.8% 20項目

肯定群「とてもそう思う」「だいたいそう思う」の割合が高い 5項目

問3	友達と協力するのは楽しい。	97.6%
問7	いじめはどんな理由があってもいけないことだ。	95.2%
問10	学校では集中してまじめに勉強できている。	92.8%
問11	コンピュータやタブレットを使うのは勉強の役に立つ。	92.8%
問18	交通マナー（右側一列歩行、自転車で並進しない、一旦停止など）を守っている。	92.8%

肯定群「とてもそう思う」「だいたいそう思う」の割合が低い(80%以下) 3項目

問19	できるだけ本や新聞を読むようにしている。	65.1%
問9	授業や行事など発言の場面で、自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表している。	73.5%
問12	地域の歴史や自然・文化の学習は好きだ。	77.1%

【考察】

問3「友達と協力するのは楽しい。」 97.6%

肯定的に回答した児童は、昨年度より3ポイントの上昇が見られ、「そう思わない」と回答した児童は0でした。昨年度に引き続き、委員会活動やスマイル（縦割り）班活動を通して、児童同士で学び合えるような機会を設定してきたことで、望ましい人間関係が形成されていることがうかがえます。

問7「いじめはどんな理由があってもいけないことだ。」 95.2%

学校生活の様々な場面で、なかまの像に込められた「友情・前進・希望・やさしさ」の4つの視点について触れ、目標にすることで、児童が友達の思いを知ったり、互いを理解し尊重し合ったりできる活動を取り入れてきました。昨年度より肯定的に回答した児童は増えていますが、教職員一人一人が、いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で指導に当たり、児童同士が良好な人間関係を築けるようにしていきます。

問10「学校では集中してまじめに勉強できている。」 92.8%

問11「コンピュータやタブレットを使うのは勉強の役に立つ。」 92.8%

「集中してまじめに授業に取り組んでいる」の設問に対して、保護者、児童、教職員のほとんどが肯定的な回答をしていることから、児童は、素直な気持ちで学力を伸ばそうと授業に取り組んでいる様子がうかがえます。

また、「コンピュータやタブレットを使うのは勉強の役に立つ。」にも9割以上の児童が肯定的に回答しています。一人一台端末で児童の学習進度に応じたドリル学習を行ったり、調べ学習のツールとして効果的に活用したりすることで、児童が集中して学習に取り組もうとする意欲につながったと考えます。

問18「交通マナー（右側一列歩行、自転車で並進しない、一旦停止など）を守っている。」 92.8%

肯定的な回答をした児童は、昨年度より2.4ポイント増加しています。交通事故に合わないためには、交通マナーの遵守を徹底させなくてはなりません。5月に行っている交通安全教室に真剣に取り組むとともに、長期休業日の前だけではなく日常的に道路の歩き方や自転車の乗り方について触れ、児童が交通安全に対する意識を高く持ち続けることができるように努力をしたいと考えます。

問19「できるだけ本や新聞を読むようにしている。」 65.1%

問9「授業や行事など発言の場面で、自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表している。」 73.5%

表現力についての設問において、肯定的な回答は保護者66.7%、児童73.5%、教職員93.4%であり、三者とも割合が低い項目になっています。このことから、自分の考えをもったりそれを伝えたりする思考力・判断力・表現力に保護者も教員も課題を感じており、児童自身も苦手意識をもっていることが分かります。

児童の伝える力（思考力・判断力・表現力等）をさらに育成していくために、授業では話し合いの機会を多く設定し対話をつなげたり、自分の考えを長い言葉で発言したりすることができるよう、さらに支援していきたいと思います。また、感想文や一言日記など、自分の考えを文章で表現する活動も継続的に行っていき、表現することの楽しさを味わわせたいと考えます。

そのためには、語彙を増やしたり多様な表現の仕方や考え方を身につけたりする必要があります。その方策の一つとして、今年度よりこども新聞を購入し児童玄関に掲示したところ、立ち止まって記事に目を通す姿も見られるようになりました。今後も、新聞や読書に親しむ機会を増やせるように工夫していきたいと思います。また、家庭においてもスマホやゲームに費やしている時間を少しでも読書の時間等に置き換えられるよう、『勉強がんばろうウィーク』などを活用し、家庭と学校が連携して児童の学習環境を支援する取組を行っていきます。

問12「地域の歴史や自然・文化の学習は好きだ。」 77.1%

地域学習についての設問において、保護者の97%、教職員の100%が肯定的に回答しているのに対し、児童の回答は77%に止まっています。子どもたちが地域に出かけたりゲストティーチャーを招いたりする中で、様々な「人・もの・こと」に出会ってほしいと思います。そして、学の良さを知り、地域の中で温かく見守られながら成長していることが実感できるような機会を取り入れたいと考えます。